

「農」ある「まち」を めざして

都留市における耕作放棄の状況

平成20年度に実施した「耕作放棄地全
体調査(図1参照)」や農林業センサス
(図2参照)によると、市における耕作
放棄地の状況は、面積で186ha、耕
作放棄地率は40%でした。この市にお
ける耕作放棄地は、耕作面積の中で大

図1 耕作放棄地全体調査における地区別の状況 (単位：a)

地区	耕作して いる面積	耕作放棄地面積		森林、原野化し た農地
		草刈りなどで耕 作することが可 能となる土地	基盤整備を行う ことで再生可能 な土地	
谷村	7,600	2,330	3,230	10,130
宝	3,400	1,760	1,590	5,420
禾生	6,900	1,240	2,120	3,430
盛里	3,700	710	2,150	4,930
東桂	6,300	1,340	2,100	3,760
合計	27,900	7,380	11,190	27,670

※「耕作している面積」は平成17年(2005年)農林業センサス資料です。

図2 都留市における耕作面積などにおける経年変化
農林業センサス(昭和50年～平成17年)資料より

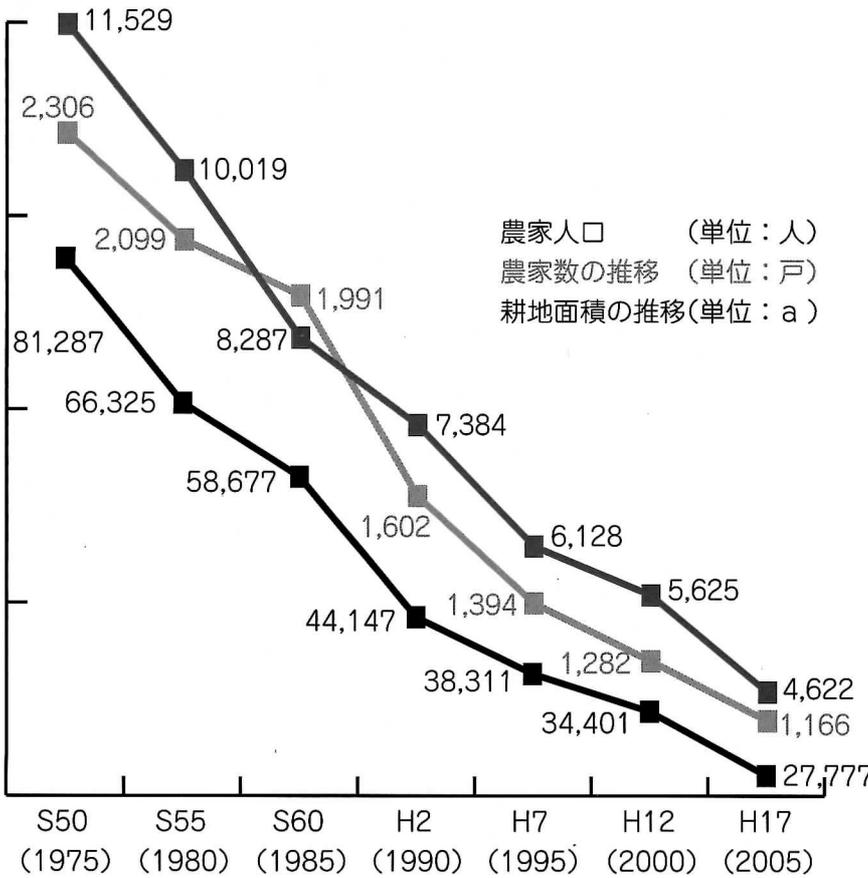
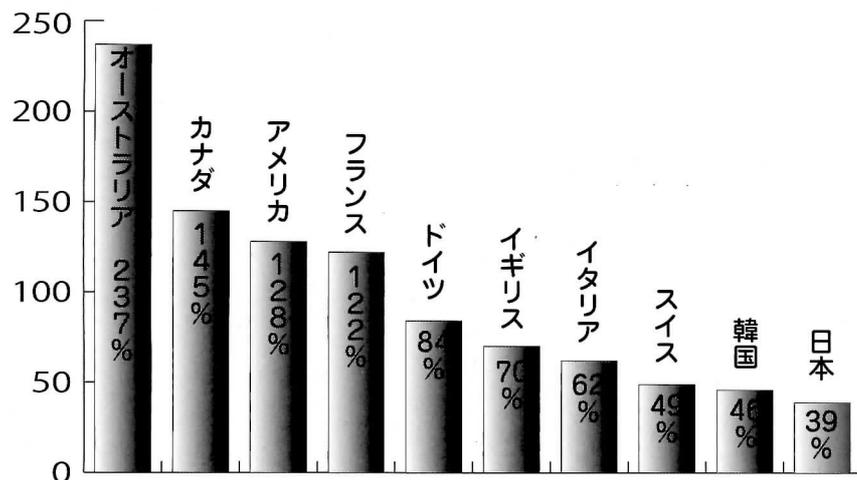


図3 主要先進国の食料自給率

日本は平成18年度、他の国は平成15年度の資料です。



大きな割合を占めています。県内の平均
耕作放棄地率が概ね14%であるのに対
し、県内でも極めて高い水準となっ
ています。また、平成17年に実施した農
林業センサスにおける県の耕作放棄地
率が全国ワースト2位だったことから
見ても、市の耕作放棄地率は全国的に
も高い水準であると言えます。

少子高齢化による担い手不足、
有害鳥獣の増加

耕作放棄地は、主に山間部周辺に点
在する形で分布しています。耕作放棄
に至った原因としては主に次の2点が
考えられます。1点目として、山間地
域では過疎化が進み、そのことによる
農業従事者の高齢化、後継者不足など、
耕作を担っていく人材が不足し、耕作
困難な状況となってしまっています。
2点目として、有害鳥獣(サル、イノシ
シ、シカなど)による農作物への被害が

年々増加し、農業に対する生産意欲の
減退が考えられます。

その先に待っているものは

このまま、耕作放棄地が増え続ける
とどんな状況が待っているのでしょうか。
まず今以上に、病害虫の発生や有
害鳥獣の繁殖などの拡大、優良農業生
産への悪影響や農村景観の悪化、不法
投棄の誘発などさまざまな問題を引き
起こし、「負」のサイクルが加速してし
まいます。

耕作を放棄してしまうことは、(イ